
別添 1

厚生労働科学研究費補助金

成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業）研究事業
学童期及び思春期等における性に関する健康課題に対する診療及び支援体制の構築に向けた研究

令和4年度 研究報告書

研究代表者 寺内 公一

令和5（2023）年 5月

I. 総括・分担研究報告

学童期及び思春期等における性に関する健康課題に対する診療及び支援体制の構築に向けた研究
----- 1
寺内公一・倉澤健太郎・尾臺珠美・阪下和美・鹿島田健一・西岡笑子

厚生労働科学研究費補助金（健やか次世代育成総合研究事業）
総括・分担 研究報告書

学童期及び思春期等における性に関する健康課題に対する診療及び支援体制の構築に向けた
研究

研究代表者

寺内 公一 東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・寄附講座教授

研究要旨

学童期及び思春期においては、第二性徴を迎えることで大きな身体的変化を経験し、性を含めた心身の健康の課題に直面する。そのような悩みの相談先として、医療機関への受診や相談を選択する者は少なく、医療機関においても、多様化・高度化する学童期・思春期の性を含めた健康課題に対応する体制が十分に整備されていない。本研究では、これらの悩みを持つ学童・思春期等に対応できる産婦人科、小児科、泌尿器科等の医療機関の体制整備の実態を把握するとともに、都道府県等に設置されている性と健康の相談支援センターや母子保健、児童福祉、学校教育等に関する関係機関との連携を含めた支援方を検討することを目標とする。

研究分担者氏名・所属研究機関名及

び所属研究機関における職名

倉澤健太郎・横浜市立大学・大学院医学研究科・准教授

尾臺珠美・東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・寄附講座助教

阪下和美・東京都立松沢病院・精神科・医員

鹿島田健一・東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・准教授

西岡笑子・順天堂大学・保健看護学部・教授

A. 研究目的

<研究全体の目的>

第二性徴をはじめとする身体的変化を経験した児童生徒は、性を含む心身の健康課題に直面する。そのような悩みについて相談するために医療機関を受診する者は少なく、また医療機関においても多様化・高度化する学童期・思春期の健康課題に十分に対応できていない。本研究では、学童・思春期の悩みに対応できる産婦人科・小児科・泌尿器科等医療機関の体制整備の実態を把握するとともに、都道府県等に設置されている性と健康の相談支援センターや母子保健・児童福祉・学校教育等に関する関係機関との連携を含めた支援方を検討することを目標とする。

研究分担者・研究協力者から成る研究班は産婦人科医・小児科医・泌尿器科医・助産師により構成されている。これに加えて、「ユース・クリニック」運営に携わる自治体職員・保健師・教員等が研究協力者として随時研究班に参加する予定である。「ユース・クリニック」の学術的定義は未定であるが、一般には「身近な地域で若者が自身の心や体、性の悩みなどを無料で気軽に相談できる場所」と理解されており、本研究でもそのような事業を展開している施設を対象とする。

<各年度の目標>

研究は3年計画で行う。1年目は、現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）における診療や相談支援に関する実態を把握する。特に、各地域において、望まない妊娠に関する相談や性教育を積極的に行うユース・クリニック事業を展開し、一定の成功を収めて

いる先駆的な取り組みについての事例をなるべく多く収集する。2年目は、1年目に収集された先駆的な取り組み事例の具体的な内容について検討し、事例間の共通項目と特異項目とを抽出しながら、統合的な解析を行う。抽出された共通項目および特異項目のそれぞれについて、国内外の文献を照会しつつ、その有用性に関する学術的な根拠の有無を評価する。3年目は、2年目に国内外の文献に照会して学術的な根拠を確認できた項目を中心に、全国的に普及可能な内容を指針草案としてまとめる。この指針草案について、研究班員を介して各種連携団体および自治体からの評価を受け、その内容を指針草案に反映して修正したものを最終的な指針案とし、これを基に普遍的に使用可能な手引書を作成する。

B. 研究方法

令和4年度の目標として掲げた課題「現在日本全国において行われている『学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口』となる医療機関（ユース・クリニック）における診療や相談支援に関する実態を把握する」を達成するために、研究代表者・研究分担者・研究協力者がそれぞれのネットワークやインターネットを利用して調査を行うと共に、外部委託業者にインターネットや文献による調査を依頼した。これらの結果を統合して、各施設・団体を4つのカテゴリー別に分類し、カテゴリーの特性を比較検討した。さらに、カテゴリーの機能を分析するうえで必要なサービス概略（医師、メディカルスタッフの有無、サービス内容）をリスト化した。

C. 研究結果

現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）はカテゴリー1：産婦人科クリニック併設型、カテゴリー2：小児科クリニック併設型、カテゴリー3：自治体運営型、カテゴリー4：その他NPO法人運営型等の4つのカテゴリーに分類されることが明らかになった。さらに各カテゴリー分類の特性が明らかになった。

カテゴリー共通項目

- ・対象が思春期の10代である
- ・相談内容は、生理、妊娠、人間関係、避妊、デートDVなどで共通している
- ・カテゴリー1, 3, 4は性の問題を取り扱い、カテゴリー2は心理面からの心と身体の問題に対処する

カテゴリー別の特性項目

- ・カテゴリー1と2は、医師に直結しており、相談から診療までをカバーする
- ・カテゴリー3と4は、専門家に加え、相談者と同世代のピアカウンセラーが対応する場合がある。また、提供される場所が病院ではないため、気軽な相談の場としての機能を果たしている
- ・カテゴリー1は、性別不問とする施設もあるが女性を対象とする施設が多い。一方でカテゴリー2は、こころの問題をメインに取扱い、性別不問であるが、性の相談には踏み込んでいない。カテゴリー3と4は、「ユースクリニック」「思春期相談」「保健室」という言葉使いから、性別を感じさせない工夫がある。
- ・相談の対応者の観点ではカテゴリー1,3,4は医師、看護師、助産師、心理士などは女性が多く、ピアカウンセラーは性別を記載していない。カテゴリー2は、紹介事例施設は男性医師だが、患者の性別を問わない診療科目ゆえに、対応医師も性別は問わないと考えられる
- ・カテゴリー1の無料またはワンコインで行うユースクリニックとカテゴリー3, 4は、無料または数百円単位かつ保険証不要で相談可能で、10代にとって壁が低いと考えられる。一方カテゴリー1の保険適応のクリニックとカテゴリー2は、医師による診療である。
- ・カテゴリー3に当たる自治体は保健所を中心に相談窓口を持っている場合が多い。またカテゴリー4の法人も自治体の委託を受けて運営している場合がある。厚生省の「スマート保健相談室」と連携し、相談内容別の窓口を紹介している。

D. 考察

現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）はカテゴリー1：産婦人科クリニック併設型、カテゴリー2：小児科クリニック併設型、カテゴリー3：自治体運営型、カテゴリー4：その他NPO法人運営型等の4つのカテゴリーに分類されることが明らかになった。さらに各カテゴリー分類の特性が明らかになった。

E. 結論

令和5年度は、令和4年度に収集された先駆的な取り組み事例の具体的な内容について検討し、事例間の共通項目と特異項目とを抽出しながら、統合的な解析を行う。抽出された共通項目および特異項目のそれぞれについて、国内外の文献を照会しつつ、その有用性に関する学術的な根拠の有無を評価する。

F. 健康危険情報

該当事項なし

G. 研究発表

1. 論文発表

該当事項なし

2. 学会発表

該当事項なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

該当事項なし

2. 実用新案登録

該当事項なし

3. その他

該当事項なし

厚生労働科学研究費補助金（健やか次世代育成総合研究事業）
分担研究報告書

学童期及び思春期等における性に関する健康課題に対する診療及び支援体制の構築に向けた研究

分担研究者 倉澤 健太郎 横浜市立大学・大学院医学研究科・准教授

研究要旨

学童期及び思春期においては、第二性徴を迎えることで大きな身体的変化を経験し、性を含めた心身の健康の課題に直面する。そのような悩みの相談先として、医療機関への受診や相談を選択する者は少なく、医療機関においても、多様化・高度化する学童期・思春期の性を含めた健康課題に対応する体制が十分に整備されていない。本研究では、これらの悩みを持つ学童・思春期等に対応できる産婦人科、小児科、泌尿器科等の医療機関の体制整備の実態を把握するとともに、都道府県等に設置されている性と健康の相談支援センターや母子保健、児童福祉、学校教育等に関する関係機関との連携を含めた支援方策を検討することを目標とする。本研究の指針草案の策定を担う。

A. 研究目的

＜研究全体の目的＞

第二性徴をはじめとする身体的変化を経験した児童生徒は、性を含む心身の健康課題に直面する。そのような悩みについて相談するために医療機関を受診する者は少なく、また医療機関においても多様化・高度化する学童期・思春期の健康課題に十分に対応できていない。本研究では、学童・思春期の悩みに対応できる産婦人科・小児科・泌尿器科等医療機関の体制整備の実態を把握するとともに、都道府県等に設置されている性と健康の相談支援センターや母子保健・児童福祉・学校教育等に関する関係機関との連携を含めた支援方策を検討することを目標とする。本研究の指針草案の策定を担う。

研究分担者・研究協力者から成る研究班は産婦人科医・小児科医・泌尿器科医・助産師により構成されている。これに加えて、「ユース・クリニック」運営に携わる自治体職員・保健師・教員等が研究協力者として随時研究班に参加する予定である。「ユース・クリニック」の学術的定義は未定であるが、一般には「身近な地域で若者が自身の心や体、性の悩みなどを無料で気軽に相談できる場所」と理解されており、本研究でもそのような事業を展開している施設を対象とする。

＜各年度の目標＞

研究は3年計画で行う。1年目は、現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）における診療や相談支援に関する実態を把握する。特に、各地域において、望まない妊娠に関する相談や性教育を積極的に行うユース・クリニック事業を展開し、一定の成功を収めている先駆的な取り組みについての事例をなるべく多く収集する。2年目は、1年目に収集された先駆的な取り組み事例の具体的な内容について検討し、事例間の共通項目と特異項目とを抽出しながら、統合的な解析を行う。抽出された共通項目および特異項目のそれぞれについて、国内外の文献を照会しつつ、その有用性に関する学術的な根拠の有無を評価する。3年目は、2年目に国内外の文献に照会して学術的な根拠を確認できた項目を中心に、全国的に普及可能な内容を指針草案としてまとめる。この指針草案について、研究班員を介して各種連携団体および自治体からの評価を受け、その内容を指針草案に反映して修正したものを最終的な指針案とし、これを基に普遍的に使用可能な手引書を作成する。

B. 研究方法

令和4年度の目標として掲げた課題「現在日本全国において行われている『学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口』となる医療機関（ユース・クリニック）における診療や相談支援に関する実態を把握する」を達成するために、研究代表者・研究分担者・研究協力者がそれぞれのネットワークやインターネットを利用して調査を行うと共に、外部委託業者にインターネットや文献による調査を依頼した。これらの結果を統合して、各施設・団体を4つのカテゴリー別に分類し、カテゴリーの特性を比較検討した。さらに、カテゴリーの機能を分析するうえで必要なサービス概略（医師、メディカルスタッフの有無、サービス内容）をリスト化した。本研究の指針草案の策定を行った。

C. 研究結果

現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）はカテゴリ1：産婦人科クリニック併設型、カテゴリ2：小児科クリニック併設型、カテゴリ3：自治体運営型、カテゴリ4：その他NPO法人運営型等の4つのカテゴリに分類されることが明らかになった。さらに各カテゴリ分類の特性が明らかになった。

カテゴリ共通項目

- ・対象が思春期の10代である
- ・相談内容は、生理、妊娠、人間関係、避妊、デートDVなどで共通している
- ・カテゴリ1, 3, 4は性の問題を取り扱い、カテゴリ2は心理面からの心と身体の問題に対処するカテゴリ別の特性項目

・カテゴリ1と2は、医師に直結しており、相談から診療までをカバーする

・カテゴリ3と4は、専門家に加え、相談者と同世代のピアカウンセラーが対応する場合がある。

また、提供される場所が病院ではないため、気軽な相談の場としての機能を果たしている

・カテゴリ1は、性別不問とする施設もあるが女性を対象とする施設が多い。一方でカテゴリ2は、こころの問題をメインに扱い、性別不問であるが、性の相談には踏み込んでいない。カテゴリ3と4は、「ユースクリニック」「思春期相談」「保健室」という言葉使いから、性別を感じさせない工夫がある。

・相談の対応者の観点ではカテゴリ1,3,4は医師、看護師、助産師、心理士などは女性が多く、ピアカウンセラーは性別を記載していない。カテゴリ2は、紹介事例施設は男性医師だが、患者の性別を問わない診療科目ゆえに、対応医師も性別は問わないと考えられる

・カテゴリ1の無料またはワンコインで行うユースクリニックとカテゴリ3, 4は、無料または数百円単位かつ保険証不要で相談可能で、10代にとって壁が低いと考えられる。一方カテゴリ1の保険適応のクリニックとカテゴリ2は、医師による診療である。

・カテゴリ3に当たる自治体は保健所を中心に相談窓口を持っている場合が多い。またカテゴリ4の法人も自治体の委託を受けて運営している場合がある。厚生省の「スマート保健相談室」と連携し、相談内容別の窓口を紹介している。

D. 考察

現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）はカテゴリ1：産婦人科クリニック併設型、カテゴリ2：小児科クリニック併設型、カテゴリ3：自治体運営型、カテゴリ4：その他NPO法人運営型等の4つのカテゴリに分類されることが明らかになった。さらに各カテゴリ分類の特性が明らかになった。

E. 結論

令和5年度は、令和4年度に収集された先駆的な取り組み事例の具体的な内容について検討し、事例間の共通項目と特異項目とを抽出しながら、統合的な解析を行う。抽出された共通項目および特異項目のそれぞれについて、国内外の文献を照会しつつ、その有用性に関する学術的な根拠の有無を評価する。

F. 健康危険情報

該当事項なし

G. 研究発表

1. 論文発表

該当事項なし

2. 学会発表

該当事項なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

該当事項なし

2. 実用新案登録

該当事項なし

3. その他

該当事項なし

厚生労働科学研究費補助金（健やか次世代育成総合研究事業）
分担研究報告書

学童期及び思春期等における性に関する健康課題に対する診療及び支援体制の構築に向けた研究

分担研究者 尾臺 珠美 東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・寄付講座助教

研究要旨

学童期及び思春期においては、第二性徴を迎えることで大きな身体的変化を経験し、性を含めた心身の健康の課題に直面する。そのような悩みの相談先として、医療機関への受診や相談を選択する者は少なく、医療機関においても、多様化・高度化する学童期・思春期の性を含めた健康課題に対応する体制が十分に整備されていない。本研究では、これらの悩みを持つ学童・思春期等に対応できる産婦人科、小児科、泌尿器科等の医療機関の体制整備の実態を把握するとともに、都道府県等に設置されている性と健康の相談支援センターや母子保健、児童福祉、学校教育等に関する関係機関との連携を含めた支援方策を検討することを目標とする。本研究のインターネット情報収集および収集事例の統合的解析を担当する。

A. 研究目的

<研究全体の目的>

第二性徴をはじめとする身体的変化を経験した児童生徒は、性を含む心身の健康課題に直面する。そのような悩みについて相談するために医療機関を受診する者は少なく、また医療機関においても多様化・高度化する学童期・思春期の健康課題に十分に対応できていない。本研究では、学童・思春期の悩みに対応できる産婦人科・小児科・泌尿器科等医療機関の体制整備の実態を把握するとともに、都道府県等に設置されている性と健康の相談支援センターや母子保健・児童福祉・学校教育等に関する関係機関との連携を含めた支援方策を検討することを目標とする。本研究のインターネット情報収集および収集事例の統合的解析を担当する。

研究分担者・研究協力者から成る研究班は産婦人科医・小児科医・泌尿器科医・助産師により構成されている。これに加えて、「ユース・クリニック」運営に携わる自治体職員・保健師・教員等が研究協力者として随時研究班に参加する予定である。「ユース・クリニック」の学術的定義は未定であるが、一般には「身近な地域で若者が自身の心や体、性の悩みなどを無料で気軽に相談できる場所」と理解されており、本研究でもそのような事業を展開している施設を対象とする。

<各年度の目標>

研究は3年計画で行う。1年目は、現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）における診療や相談支援に関する実態を把握する。特に、各地域において、望まない妊娠に関する相談や性教育を積極的に行うユース・クリニック事業を展開し、一定の成功を収めている先駆的な取り組みについての事例をなるべく多く収集する。2年目は、1年目に収集された先駆的な取り組み事例の具体的な内容について検討し、事例間の共通項目と特異項目とを抽出しながら、統合的な解析を行う。抽出された共通項目および特異項目のそれぞれについて、国内外の文献を照会しつつ、その有用性に関する学術的な根拠の有無を評価する。3年目は、2年目に国内外の文献に照会して学術的な根拠を確認できた項目を中心に、全国的に普及可能な内容を指針草案としてまとめる。この指針草案について、研究班員を介して各種連携団体および自治体からの評価を受け、その内容を指針草案に反映して修正したものを最終的な指針案とし、これを基に普遍的に使用可能な手引書を作成する。

B. 研究方法

令和4年度の目標として掲げた課題「現在日本全国において行われている『学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口』となる医療機関（ユース・クリニック）における診療や相談支援に関する実態を把握する」を達成するために、研究代表者・研究分担者・研究協力者がそれぞれのネットワークやインターネットを利用して調査を行うと共に、外部委託業者にインターネットや文献による調査を依頼した。これらの結果を統合して、各施設・団体を4つのカテゴリー別に分類し、カテゴリーの特性を比較検討した。さらに、カテゴリーの機能を分析するうえで必要なサービス概略（医師、メディカルスタッフの有無、サービス内容）をリスト化した。本研究のインターネット情報収集および収集事例の統合的解析を担当した。

C. 研究結果

現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）はカテゴリ1：産婦人科クリニック併設型、カテゴリ2：小児科クリニック併設型、カテゴリ3：自治体運営型、カテゴリ4：その他NPO法人運営型等の4つのカテゴリに分類されることが明らかになった。さらに各カテゴリ分類の特性が明らかになった。

カテゴリ共通項目

- ・対象が思春期の10代である
- ・相談内容は、生理、妊娠、人間関係、避妊、デートDVなどで共通している
- ・カテゴリ1, 3, 4は性の問題を取り扱い、カテゴリ2は心理面からの心と身体の問題に対処する

カテゴリ別の特性項目

- ・カテゴリ1と2は、医師に直結しており、相談から診療までをカバーする
- ・カテゴリ3と4は、専門家に加え、相談者と同世代のピアカウンセラーが対応する場合がある。また、提供される場所が病院ではないため、気軽な相談の場としての機能を果たしている
- ・カテゴリ1は、性別不問とする施設もあるが女性を対象とする施設が多い。一方でカテゴリ2は、こころの問題をメインに扱い、性別不問であるが、性の相談には踏み込んでいない。カテゴリ3と4は、「ユースクリニック」「思春期相談」「保健室」という言葉使いから、性別を感じさせない工夫がある。
- ・相談の対応者の観点ではカテゴリ1,3,4は医師、看護師、助産師、心理士などは女性が多く、ピアカウンセラーは性別を記載していない。カテゴリ2は、紹介事例施設は男性医師だが、患者の性別を問わない診療科目ゆえに、対応医師も性別は問わないと考えられる
- ・カテゴリ1の無料またはワンコインで行うユースクリニックとカテゴリ3, 4は、無料または数百円単位かつ保険証不要で相談可能で、10代にとって壁が低いと考えられる。一方カテゴリ1の保険適応のクリニックとカテゴリ2は、医師による診療である。
- ・カテゴリ3に当たる自治体は保健所を中心に相談窓口を持っている場合が多い。またカテゴリ4の法人も自治体の委託を受けて運営している場合がある。厚生省の「スマート保健相談室」と連携し、相談内容別の窓口を紹介している。

D. 考察

現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）はカテゴリ1：産婦人科クリニック併設型、カテゴリ2：小児科クリニック併設型、カテゴリ3：自治体運営型、カテゴリ4：その他NPO法人運営型等の4つのカテゴリに分類されることが明らかになった。さらに各カテゴリ分類の特性が明らかになった。

E. 結論

令和5年度は、令和4年度に収集された先駆的な取り組み事例の具体的な内容について検討し、事例間の共通項目と特異項目とを抽出しながら、統合的な解析を行う。抽出された共通項目および特異項目のそれぞれについて、国内外の文献を照会しつつ、その有用性に関する学術的な根拠の有無を評価する。

F. 健康危険情報

該当事項なし

G. 研究発表

1. 論文発表
該当事項なし
2. 学会発表
該当事項なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得
該当事項なし
2. 実用新案登録
該当事項なし
3. その他
該当事項なし

厚生労働科学研究費補助金（健やか次世代育成総合研究事業）
分担研究報告書

学童期及び思春期等における性に関する健康課題に対する診療及び支援体制の構築に向けた研究

分担研究者 阪下 和美 東京都立松沢病院・精神科・医員

研究要旨

学童期及び思春期においては、第二性徴を迎えることで大きな身体的変化を経験し、性を含めた心身の健康の課題に直面する。そのような悩みの相談先として、医療機関への受診や相談を選択する者は少なく、医療機関においても、多様化・高度化する学童期・思春期の性を含めた健康課題に対応する体制が十分に整備されていない。本研究では、これらの悩みを持つ学童・思春期等に対応できる産婦人科、小児科、泌尿器科等の医療機関の体制整備の実態を把握するとともに、都道府県等に設置されている性と健康の相談支援センターや母子保健、児童福祉、学校教育等に関する関係機関との連携を含めた支援方策を検討することを目標とする。本研究の小児科領域の取り組みに関する情報収集を担当する。

A. 研究目的

＜研究全体の目的＞

第二性徴をはじめとする身体的変化を経験した児童生徒は、性を含む心身の健康課題に直面する。そのような悩みについて相談するために医療機関を受診する者は少なく、また医療機関においても多様化・高度化する学童期・思春期の健康課題に十分に対応できていない。本研究では、学童・思春期の悩みに対応できる産婦人科・小児科・泌尿器科等医療機関の体制整備の実態を把握するとともに、都道府県等に設置されている性と健康の相談支援センターや母子保健・児童福祉・学校教育等に関する関係機関との連携を含めた支援方策を検討することを目標とする。本研究の小児科領域の取り組みに関する情報収集を担当する。

研究分担者・研究協力者から成る研究班は産婦人科医・小児科医・泌尿器科医・助産師により構成されている。これに加えて、「ユース・クリニック」運営に携わる自治体職員・保健師・教員等が研究協力者として随時研究班に参加する予定である。「ユース・クリニック」の学術的定義は未定であるが、一般には「身近な地域で若者が自身の心や体、性の悩みなどを無料で気軽に相談できる場所」と理解されており、本研究でもそのような事業を展開している施設を対象とする。

＜各年度の目標＞

研究は3年計画で行う。1年目は、現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）における診療や相談支援に関する実態を把握する。特に、各地域において、望まない妊娠に関する相談や性教育を積極的に行うユース・クリニック事業を展開し、一定の成功を収めている先駆的な取り組みについての事例をなるべく多く収集する。2年目は、1年目に収集された先駆的な取り組み事例の具体的な内容について検討し、事例間の共通項目と特異項目とを抽出しながら、統合的な解析を行う。抽出された共通項目および特異項目のそれぞれについて、国内外の文献を照会しつつ、その有用性に関する学術的な根拠の有無を評価する。3年目は、2年目に国内外の文献に照会して学術的な根拠を確認できた項目を中心に、全国的に普及可能な内容を指針草案としてまとめる。この指針草案について、研究班員を介して各種連携団体および自治体からの評価を受け、その内容を指針草案に反映して修正したものを最終的な指針案とし、これを基に普遍的に使用可能な手引書を作成する。

B. 研究方法

令和4年度の目標として掲げた課題「現在日本全国において行われている『学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口』となる医療機関（ユース・クリニック）における診療や相談支援に関する実態を把握する」を達成するために、研究代表者・研究分担者・研究協力者がそれぞれのネットワークやインターネットを利用して調査を行うと共に、外部委託業者にインターネットや文献による調査を依頼した。これらの結果を統合して、各施設・団体を4つのカテゴリー別に分類し、カテゴリーの特性を比較検討した。さらに、カテゴリーの機能を分析するうえで必要なサービス概略（医師、メディカルスタッフの有無、サービス内容）をリスト化した。本研究の小児科領域の取り組みに関する情報収集を担当した。

C. 研究結果

現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）はカテゴリー1：産婦人科クリニック併設型、カテゴリー2：小児科クリニック併設型、カテゴリー3：自治体運営型、カテゴリー4：その他NPO法人運営型等の4つのカテゴリーに分類されることが明らかになった。さらに各カテゴリー分類の特性が明らかになった。

カテゴリー共通項目

- ・対象が思春期の10代である
- ・相談内容は、生理、妊娠、人間関係、避妊、デートDVなどで共通している
- ・カテゴリー1, 3, 4は性の問題を取り扱い、カテゴリー2は心理面からの心と身体の問題に対処するカテゴリー別の特性項目

・カテゴリー1と2は、医師に直結しており、相談から診療までをカバーする

・カテゴリー3と4は、専門家に加え、相談者と同世代のピアカウンセラーが対応する場合がある。

また、提供される場所が病院ではないため、気軽な相談の場としての機能を果たしている

・カテゴリー1は、性別不問とする施設もあるが女性を対象とする施設が多い。一方でカテゴリー2は、こころの問題をメインに扱い、性別不問であるが、性の相談には踏み込んでいない。カテゴリー3と4は、「ユースクリニック」「思春期相談」「保健室」という言葉使いから、性別を感じさせない工夫がある。

・相談の対応者の観点ではカテゴリー1,3,4は医師、看護師、助産師、心理士などは女性が多く、ピアカウンセラーは性別を記載していない。カテゴリー2は、紹介事例施設は男性医師だが、患者の性別を問わない診療科目ゆえに、対応医師も性別は問わないと考えられる

・カテゴリー1の無料またはワンコインで行うユースクリニックとカテゴリー3, 4は、無料または数百円単位かつ保険証不要で相談可能で、10代にとって壁が低いと考えられる。一方カテゴリー1の保険適応のクリニックとカテゴリー2は、医師による診療である。

・カテゴリー3に当たる自治体は保健所を中心に相談窓口を持っている場合が多い。またカテゴリー4の法人も自治体の委託を受けて運営している場合がある。厚生省の「スマート保健相談室」と連携し、相談内容別の窓口を紹介している。

D. 考察

現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）はカテゴリー1：産婦人科クリニック併設型、カテゴリー2：小児科クリニック併設型、カテゴリー3：自治体運営型、カテゴリー4：その他NPO法人運営型等の4つのカテゴリーに分類されることが明らかになった。さらに各カテゴリー分類の特性が明らかになった。

E. 結論

令和5年度は、令和4年度に収集された先駆的な取り組み事例の具体的な内容について検討し、事例間の共通項目と特異項目とを抽出しながら、統合的な解析を行う。抽出された共通項目および特異項目のそれぞれについて、国内外の文献を照会しつつ、その有用性に関する学術的な根拠の有無を評価する。

F. 健康危険情報

該当事項なし

G. 研究発表

1. 論文発表

該当事項なし

2. 学会発表

該当事項なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

該当事項なし

2. 実用新案登録

該当事項なし

3. その他

該当事項なし

厚生労働科学研究費補助金（健やか次世代育成総合研究事業）
分担研究報告書

学童期及び思春期等における性に関する健康課題に対する診療及び支援体制の構築に向けた研究

分担研究者 鹿島田 健一 東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・講師

研究要旨

学童期及び思春期においては、第二性徴を迎えることで大きな身体的変化を経験し、性を含めた心身の健康の課題に直面する。そのような悩みの相談先として、医療機関への受診や相談を選択する者は少なく、医療機関においても、多様化・高度化する学童期・思春期の性を含めた健康課題に対応する体制が十分に整備されていない。本研究では、これらの悩みを持つ学童・思春期等に対応できる産婦人科、小児科、泌尿器科等の医療機関の体制整備の実態を把握するとともに、都道府県等に設置されている性と健康の相談支援センターや母子保健、児童福祉、学校教育等に関する関係機関との連携を含めた支援方策を検討することを目標とする。本研究の小児科領域の取り組みに関する情報収集を担当する。

A. 研究目的

＜研究全体の目的＞

第二性徴をはじめとする身体的変化を経験した児童生徒は、性を含む心身の健康課題に直面する。そのような悩みについて相談するために医療機関を受診する者は少なく、また医療機関においても多様化・高度化する学童期・思春期の健康課題に十分に対応できていない。本研究では、学童・思春期の悩みに対応できる産婦人科・小児科・泌尿器科等医療機関の体制整備の実態を把握するとともに、都道府県等に設置されている性と健康の相談支援センターや母子保健・児童福祉・学校教育等に関する関係機関との連携を含めた支援方策を検討することを目標とする。本研究の小児科領域の取り組みに関する情報収集を担当する。

研究分担者・研究協力者から成る研究班は産婦人科医・小児科医・泌尿器科医・助産師により構成されている。これに加えて、「ユース・クリニック」運営に携わる自治体職員・保健師・教員等が研究協力者として随時研究班に参加する予定である。「ユース・クリニック」の学術的定義は未定であるが、一般には「身近な地域で若者が自身の心や体、性の悩みなどを無料で気軽に相談できる場所」と理解されており、本研究でもそのような事業を展開している施設を対象とする。

＜各年度の目標＞

研究は3年計画で行う。1年目は、現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）における診療や相談支援に関する実態を把握する。特に、各地域において、望まない妊娠に関する相談や性教育を積極的に行うユース・クリニック事業を展開し、一定の成功を収めている先駆的な取り組みについての事例をなるべく多く収集する。2年目は、1年目に収集された先駆的な取り組み事例の具体的な内容について検討し、事例間の共通項目と特異項目とを抽出しながら、統合的な解析を行う。抽出された共通項目および特異項目のそれぞれについて、国内外の文献を照会しつつ、その有用性に関する学術的な根拠の有無を評価する。3年目は、2年目に国内外の文献に照会して学術的な根拠を確認できた項目を中心に、全国的に普及可能な内容を指針草案としてまとめる。この指針草案について、研究班員を介して各種連携団体および自治体からの評価を受け、その内容を指針草案に反映して修正したものを最終的な指針案とし、これを基に普遍的に使用可能な手引書を作成する。

B. 研究方法

令和4年度の目標として掲げた課題「現在日本全国において行われている『学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口』となる医療機関（ユース・クリニック）における診療や相談支援に関する実態を把握する」を達成するために、研究代表者・研究分担者・研究協力者がそれぞれのネットワークやインターネットを利用して調査を行うと共に、外部委託業者にインターネットや文献による調査を依頼した。これらの結果を統合して、各施設・団体を4つのカテゴリー別に分類し、カテゴリーの特性を比較検討した。さらに、カテゴリーの機能を分析するうえで必要なサービス概略（医師、メディカルスタッフの有無、サービス内容）をリスト化した。本研究の小児科領域の取り組みに関する情報収集を担当した。

C. 研究結果

現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）はカテゴリ1：産婦人科クリニック併設型、カテゴリ2：小児科クリニック併設型、カテゴリ3：自治体運営型、カテゴリ4：その他NPO法人運営型等の4つのカテゴリに分類されることが明らかになった。さらに各カテゴリ分類の特性が明らかになった。

カテゴリ共通項目

- ・対象が思春期の10代である
- ・相談内容は、生理、妊娠、人間関係、避妊、デートDVなどで共通している
- ・カテゴリ1, 3, 4は性の問題を取り扱い、カテゴリ2は心理面からの心と身体の問題に対処するカテゴリ別の特性項目

・カテゴリ1と2は、医師に直結しており、相談から診療までをカバーする

・カテゴリ3と4は、専門家に加え、相談者と同世代のピアカウンセラーが対応する場合がある。

また、提供される場所が病院ではないため、気軽な相談の場としての機能を果たしている

・カテゴリ1は、性別不問とする施設もあるが女性を対象とする施設が多い。一方でカテゴリ2は、こころの問題をメインに扱い、性別不問であるが、性の相談には踏み込んでいない。カテゴリ3と4は、「ユースクリニック」「思春期相談」「保健室」という言葉使いから、性別を感じさせない工夫がある。

・相談の対応者の観点ではカテゴリ1,3,4は医師、看護師、助産師、心理士などは女性が多く、ピアカウンセラーは性別を記載していない。カテゴリ2は、紹介事例施設は男性医師だが、患者の性別を問わない診療科目ゆえに、対応医師も性別は問わないと考えられる

・カテゴリ1の無料またはワンコインで行うユースクリニックとカテゴリ3, 4は、無料または数百円単位かつ保険証不要で相談可能で、10代にとって壁が低いと考えられる。一方カテゴリ1の保険適応のクリニックとカテゴリ2は、医師による診療である。

・カテゴリ3に当たる自治体は保健所を中心に相談窓口を持っている場合が多い。またカテゴリ4の法人も自治体の委託を受けて運営している場合がある。厚生省の「スマート保健相談室」と連携し、相談内容別の窓口を紹介している。

D. 考察

現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）はカテゴリ1：産婦人科クリニック併設型、カテゴリ2：小児科クリニック併設型、カテゴリ3：自治体運営型、カテゴリ4：その他NPO法人運営型等の4つのカテゴリに分類されることが明らかになった。さらに各カテゴリ分類の特性が明らかになった。

E. 結論

令和5年度は、令和4年度に収集された先駆的な取り組み事例の具体的な内容について検討し、事例間の共通項目と特異項目とを抽出しながら、統合的な解析を行う。抽出された共通項目および特異項目のそれぞれについて、国内外の文献を照会しつつ、その有用性に関する学術的な根拠の有無を評価する。

F. 健康危険情報

該当事項なし

G. 研究発表

1. 論文発表

該当事項なし

2. 学会発表

該当事項なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

該当事項なし

2. 実用新案登録

該当事項なし

3. その他

該当事項なし

厚生労働科学研究費補助金（健やか次世代育成総合研究事業）
分担研究報告書

学童期及び思春期等における性に関する健康課題に対する診療及び支援体制の構築に向けた研究

分担研究者 西岡 笑子 順天堂大学・保険看護学部・教授

研究要旨

学童期及び思春期においては、第二性徴を迎えることで大きな身体的変化を経験し、性を含めた心身の健康の課題に直面する。そのような悩みの相談先として、医療機関への受診や相談を選択する者は少なく、医療機関においても、多様化・高度化する学童期・思春期の性を含めた健康課題に対応する体制が十分に整備されていない。本研究では、これらの悩みを持つ学童・思春期等に対応できる産婦人科、小児科、泌尿器科等の医療機関の体制整備の実態を把握するとともに、都道府県等に設置されている性と健康の相談支援センターや母子保健、児童福祉、学校教育等に関する関係機関との連携を含めた支援方策を検討することを目標とする。本研究の看護領域の取り組みに関する情報収集を担当する。

A. 研究目的

＜研究全体の目的＞

第二性徴をはじめとする身体的変化を経験した児童生徒は、性を含む心身の健康課題に直面する。そのような悩みについて相談するために医療機関を受診する者は少なく、また医療機関においても多様化・高度化する学童期・思春期の健康課題に十分に対応できていない。本研究では、学童・思春期の悩みに対応できる産婦人科・小児科・泌尿器科等医療機関の体制整備の実態を把握するとともに、都道府県等に設置されている性と健康の相談支援センターや母子保健・児童福祉・学校教育等に関する関係機関との連携を含めた支援方策を検討することを目標とする。本研究の看護領域の取り組みに関する情報収集を担当する。

研究分担者・研究協力者から成る研究班は産婦人科医・小児科医・泌尿器科医・助産師により構成されている。これに加えて、「ユース・クリニック」運営に携わる自治体職員・保健師・教員等が研究協力者として随時研究班に参加する予定である。「ユース・クリニック」の学術的定義は未定であるが、一般には「身近な地域で若者が自身の心や体、性の悩みなどを無料で気軽に相談できる場所」と理解されており、本研究でもそのような事業を展開している施設を対象とする。

＜各年度の目標＞

研究は3年計画で行う。1年目は、現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）における診療や相談支援に関する実態を把握する。特に、各地域において、望まない妊娠に関する相談や性教育を積極的に行うユース・クリニック事業を展開し、一定の成功を収めている先駆的な取り組みについての事例をなるべく多く収集する。2年目は、1年目に収集された先駆的な取り組み事例の具体的な内容について検討し、事例間の共通項目と特異項目とを抽出しながら、統合的な解析を行う。抽出された共通項目および特異項目のそれぞれについて、国内外の文献を照会しつつ、その有用性に関する学術的な根拠の有無を評価する。3年目は、2年目に国内外の文献に照会して学術的な根拠を確認できた項目を中心に、全国的に普及可能な内容を指針草案としてまとめる。この指針草案について、研究班員を介して各種連携団体および自治体からの評価を受け、その内容を指針草案に反映して修正したものを最終的な指針案とし、これを基に普遍的に使用可能な手引書を作成する。

B. 研究方法

令和4年度の目標として掲げた課題「現在日本全国において行われている『学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口』となる医療機関（ユース・クリニック）における診療や相談支援に関する実態を把握する」を達成するために、研究代表者・研究分担者・研究協力者がそれぞれのネットワークやインターネットを利用して調査を行うと共に、外部委託業者にインターネットや文献による調査を依頼した。これらの結果を統合して、各施設・団体を4つのカテゴリー別に分類し、カテゴリーの特性を比較検討した。さらに、カテゴリーの機能を分析するうえで必要なサービス概略（医師、メディカルスタッフの有無、サービス内容）をリスト化した。本研究の看護領域の取り組みに関する情報収集を担当した。

C. 研究結果

現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）はカテゴリー1：産婦人科クリニック併設型、カテゴリー2：小児科クリニック併設型、カテゴリー3：自治体運営型、カテゴリー4：その他NPO法人運営型等の4つのカテゴリーに分類されることが明らかになった。さらに各カテゴリー分類の特性が明らかになった。

カテゴリー共通項目

- ・対象が思春期の10代である
- ・相談内容は、生理、妊娠、人間関係、避妊、デートDVなどで共通している
- ・カテゴリー1, 3, 4は性の問題を取り扱い、カテゴリー2は心理面からの心と身体の問題に対処するカテゴリー別の特性項目

・カテゴリー1と2は、医師に直結しており、相談から診療までをカバーする

・カテゴリー3と4は、専門家に加え、相談者と同世代のピアカウンセラーが対応する場合がある。

また、提供される場所が病院ではないため、気軽な相談の場としての機能を果たしている

・カテゴリー1は、性別不問とする施設もあるが女性を対象とする施設が多い。一方でカテゴリー2は、こころの問題をメインに扱い、性別不問であるが、性の相談には踏み込んでいない。カテゴリー3と4は、「ユースクリニック」「思春期相談」「保健室」という言葉使いから、性別を感じさせない工夫がある。

・相談の対応者の観点ではカテゴリー1,3,4は医師、看護師、助産師、心理士などは女性が多く、ピアカウンセラーは性別を記載していない。カテゴリー2は、紹介事例施設は男性医師だが、患者の性別を問わない診療科目ゆえに、対応医師も性別は問わないと考えられる

・カテゴリー1の無料またはワンコインで行うユースクリニックとカテゴリー3, 4は、無料または数百円単位かつ保険証不要で相談可能で、10代にとって壁が低いと考えられる。一方カテゴリー1の保険適応のクリニックとカテゴリー2は、医師による診療である。

・カテゴリー3に当たる自治体は保健所を中心に相談窓口を持っている場合が多い。またカテゴリー4の法人も自治体の委託を受けて運営している場合がある。厚生省の「スマート保健相談室」と連携し、相談内容別の窓口を紹介している。

D. 考察

現在日本全国において行われている「学童期・思春期にある男女の性を含めた心身の健康課題に関する相談の窓口」となる医療機関（ユース・クリニック）はカテゴリー1：産婦人科クリニック併設型、カテゴリー2：小児科クリニック併設型、カテゴリー3：自治体運営型、カテゴリー4：その他NPO法人運営型等の4つのカテゴリーに分類されることが明らかになった。さらに各カテゴリー分類の特性が明らかになった。

E. 結論

令和5年度は、令和4年度に収集された先駆的な取り組み事例の具体的な内容について検討し、事例間の共通項目と特異項目とを抽出しながら、統合的な解析を行う。抽出された共通項目および特異項目のそれぞれについて、国内外の文献を照会しつつ、その有用性に関する学術的な根拠の有無を評価する。

F. 健康危険情報

該当事項なし

G. 研究発表

1. 論文発表

該当事項なし

2. 学会発表

該当事項なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

該当事項なし

2. 実用新案登録

該当事項なし

3. その他

該当事項なし

別添 5

研究成果の刊行に関する一覧表

該当事項なし

厚生労働科学研究費における倫理審査報告

該当なし